

PAL (Peer Assisted Learning) プログラム
— 教育的サポートを必要とする英文学科対象のプログラムの設置と実施 —

背景・目的

学生の学力、学習習慣、学習意欲、学習目的の多様化を背景に、大学の講義に困難を感じる学生が少なからず存在している。それに対応すべく、本学英文学科では、カリキュラム内の教育運営上の工夫に加え、課外教育支援の強化をはかり、PALプログラムを2010年度より導入した。

PALは、学習指導において、教員が直接それにあたるのではなく、“Peer(仲間)”が学習支援にあたり、上位レベルの学生が下位レベルの学生の支援を担当し、基礎学力を身につけさせ、高等教育レベルに結びつけていくことを目的としたものである。本学科においては、卒業生（本学大学院修士課程修了者）が支援にあたった。これにより、学年を超えた交流やつながりが形成され、年齢や立場に近いことにより、学生が質問をしやすい環境が生まれた。学習支援者は、教員と、現場での状況を報告しながら運営し、学生、学習支援者、教員が連携をとる形で実施した。

実施内容

2008年度から1年生を対象に実施している英語基礎力テスト：Achievement Test (AT)があり、その不合格者に対する学習支援を、2010年度よりPALプログラムで行った結果、非常に効果的であることが判明した。さらに、基礎力のさらなる強化も求められることから、2011年度には、2年生にも対象を広げ、大きな成果をあげることができた。これに基づき、今年も1,2年生を対象に英語能力を上げることを主な目的とし、3,4年生に対しては、正課の担当教員と連携をとりながら、学習支援が必要と思われる学生への対応をPALで行い、一定の英語力を身につけたうえで卒業をめざす。

	AT1	AT2
不合格者数	21	41
不合格者の割合 (%)	30%	50%

[未受験者:AT1=1名、AT2=6名]

上記は2012年度の結果で、不合格の学生を対象に、さらにレベル別小グループに分け、以下のような人数構成でPALプログラムを行った。

	AT1	AT2
Study Group	学生数	学生数
A	11	21
B	11	26

結果及び考察

週1回80分4回の勉強会を行い再試験に挑んだ。再試でも合格点に達しなかった学生には、さらに勉強会を行い、再々試験を実施した。結果は以下の通りである。

	AT1		AT2	
	再試	再々試	再試	再々試
	Oct	Nov	Oct	Dec
合格	19	1	28	11
不合格	1	0	17	5

[未受験者：AT1 Oct=1,Nov=1 AT2 Oct=2, Dec=3]

2年生の再々試験不合格者5名には、答案返却時に解説を行い、さらに試験をした結果4名が合格となった。不合格者1名は、来年も受験するようにとの指導を行った。1年生は、全員が合格となった。

PALは、学生は学びの動機付けや、学習の習慣形成に寄与し、受講者も自分たちの成長を自覚できたと思われる。今後は、この成果を英文学科の教員の担当科目と連結できるように、検討することが来年度以降の課題であると思われる。